

海外輸出実証実験への参加企業募集説明会を全道6カ所で開催

北海道開発局 港湾空港部 港湾計画課

今年度、北海道開発局では、道産食品の今後の輸出促進方策の検討のため、昨年6月に連携協定を締結した一般社団法人北海道国際流通機構(以下、HIDO)の協力の下、海外輸出の実証実験を行います。本実験へ参加する企業を募集するための説明会を6月20日から7月6日にかけて全道6カ所で開催しました。

実証実験では、苫小牧港から台湾・韓国へ海上小口混載コンテナによる輸出を行います。説明会にて集まった商品に現地消費者のニーズに合わせた改良(パッケージデザインや内容量等の変更)を実施し、海外現地の百貨店等で比較販売をする予定です。

北海道開発局では、北海道総合開発計画における道産食品輸出額1,500億円(平成37年)の実現に向けて、「北海道国際輸送プラットホーム(通称:HOP)」や「農水産物輸出促進基盤整備事業による屋根付き岸壁の整備」など、輸出拡大に向けた取組を行ってきました。

しかし、道産品の輸出については、高額な輸送コス

トや通関による厳しい輸入規制、海外現地における嗜好の把握が難しいこと等、誰でも簡単に輸出できる環境が整っておらず、多くの課題を抱えている状況です。

本実験の協力企業であるHIDOでは、すでに海外で事業を展開している企業を社員として招き入れ、現地消費者の購買ニーズ等の海外の最新情報を得ています。これらのニーズを取り入れた改良商品を台湾・韓国にて販売し効果を検証する予定です。

説明会には全会場合わせて85名の参加があり、参加者からは「現地ニーズの情報を得られるのは中小企業にとってもありがたいこと」、「過去に輸出事務で苦労した経験もあり、こういった説明会はありがたい」などのご意見をいただきました。

実験の結果は、道内の輸出に取り組む企業の視野を広げるため、輸出実績の無い企業も安心して輸出できるような方策を検討するための情報として活用します。



全道説明会を開催



鳥取氏(HIDO代表理事)による講演



7月6日 説明会(札幌会場)の様子